

静岡

静岡県は、県東部地域を中心に、医療健康産業の集積を目指した「ファルマバレープロジェクト」を推進している。

このプロジェクトは、県民の健康増進・疾病克服と医療産業基盤の確立を施策の両輪とし、県立静岡がんセンターを中心とした臨床研究・研究開発、ファルマバレーセンター（PVC）設置による地域企業の医療健康産業への参入と事業化支援を行ってきた。これまで約30社の新規参入や60を超える製品が生まれるなど着実な成果を挙げ、さらに国の総合特区に指定されるなどこのプロジェクトへの期待、評価も高まっている。

そして現在、機能強化事業として静岡がんセンターに隣接し東名高速道路・新東名沼津ICから約10分という好立地にある旧長泉高校跡地を活用、平成27年度末の完成を目的に新たな拠点施設の整備が進められている。

新拠点施設は、静岡がんセンターの臨床現場から生まれる医療ニーズや研究成果を、多種多様な医薬品・医療機器の開発、そして、早期に製品化に結び付けることをねらいとした施設であり、地域企業の参入や製品開発のための支援、産学官連携による研究開発情報の交換・連携機会の提供、高度な研究・開発人材の育成など、オープンイノベーションのために必要な仕組みを備えた施設となる計画で

ある。そのため、施設全体（既存施設と新設される3棟の研究棟で構成）を3つの戦略的なゾーンに区分している。

一つ目はプロジェクト支援・研究ゾーンである。このゾーンにはPVCが移転、ゾーン内に拠点を開設した知財コンサルタントや製造販売業者、リーディングパートナー（大手医療関連企業）等からの専門的なアドバイスや情報提供を集約、医療健康産業への参入や事業拡大を図る企業に対するワンストップの支援体制を構築する。

また、ベンチャー企業や大学等が活用しやすい研究室を提供、重点課題である診断薬や医療機器（ロボット・チタンインプラント）等の研究開発を促進、試作検査室、展示場なども整備する。

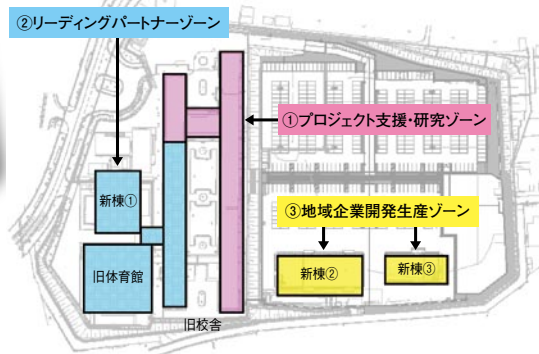
二つ目はリーディングパートナーゾーンである。自ら高度な研究開発を行いながら、地域企業の支援に積極的に協力が期待できる医療・健康関連のリーディングパートナーが研究開発の拠点として活用するスペースである。すでにテルモ株式会社の入居が内定し、高度な医療機器の開発・生産と、地域企業へのノウハウ提供等が大いに期待される。

三つ目は地域企業開発生産ゾーンである。ここは創業・第二創業を果たした企業が、事業拡大を図るために活用するスペースであり、地域の中小企業がPCVなどからの支援を受けながら中核・中堅企業に成長するまでの間に使用するレンタル工場ともいえる。このゾーンには、東海部品工業株式会社（沼津市）の入居が内定している。

こうしたゾーン設定のねらいは、規模・業種等を異にする多彩な企業・機関等によるオープンイノベーションの喚起、拡充が期待できるところにある。

県では、新拠点施設が静岡がんセンターの研究成果やゲノム情報、PCVが所有する11万7千件の化合物ライブラリー等を活用しやすい優れた研究環境にあることをアピールし、医薬品や医療機器の研究開発を行う様々な企業・機関の進出を促進し、医療健康産業の更なる集積、発展に取り組んでいく計画である。

新拠点施設の整備概要（配置計画）



「ファルマバレープロジェクト 新拠点施設、整備へ」



ファルマバレー新拠点施設イメージパース、後方が県立がんセンター